

いじめを「いじめ」としないために

子どもの大きな成長につなげたい

2018.10.26

No.36

校長 渡邊 幸二

今、わけあって県内のあちこちの学校に電話をしています。校長先生に用事があるのですが、あいにく不在ということがよくあります。当然またあとで電話をかけることになるのですが……

私:こちら、酒田市立浜田小学校 校長 渡邊幸二と申しますが、

〇〇校長先生はおいでですか？

対:たいへん申し訳ございませんが、校長はただいま席をはずしております。3時頃までには戻りますので、戻りましたらこちらからお電話を差し上げます。



と応答していただくと非常に嬉しく思います。何かとても大切に扱っていただいたと感じるのです。

これは、前にもお伝えしましたが、職員室にお客様がいらっしゃったときも同じです。一発でその学校の雰囲気、良し悪しが伝わってきます（ポイントは「明るい声のあいさつ」が返ってくるかどうかです）。

しかし、中にはこんな対応の学校もあります。

対:校長ですか……ちょっと今いません。

私:今日は戻られますか？

対:午後には戻ると思いますが……。

私:わかりました。後ほどまたかけ直します。

対:よろしくお願ひしま～す。



もちろん電話のかけ直しはやぶさかではないのですが、受け手の学校からかけていただく対応だと「お客様を大事にしている」と感じられ、ありがたいし嬉しいです。ですから、「こちらからお電話を差し上げます」でなくとも、電話のあった先生にメモをあげ電話のあったことを伝えていただければ、受け手からかけることもできます。

小さなことですが、その学校の先生方の他者意識・思いやりの高さが伝わってきます。小さなことですが、そういうところに魂が宿ります。浜田小学校の先生方には温かな応対をこれからもお願いいたします。

いじめを「いじめ」としないために

「いじめ」（引用：いじめの定義：文部科学省）

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

どの学級でも、毎日、何度も起きている

いじめは、今の定義からすると、上のように「どの学級でも、毎日、何度も」起きているはずです。おそらく、みなさんの教室でもそうでしょう。当該児童が「いじめだ!」と思えばいじめですから、もしそれを全て毎日カウントしたらものすごい数になることは間違いありません。全国41万件で済むわけがありません。



山形新聞 10/26より

では、なぜカウントしないのか。カウントして報告しなくていいのか!

それは、そのいじめが教育的出来事として適切に対応され、**先生方がいじめた子どもやいじめられた子どもの成長につながっているから**だと思います。

いじめやトラブルは、本当に毎日毎日起きているはず。それらは放っとけば必ず大きな問題に発展するでしょう。しかし、ていねいに、子どもの思いに寄り添いながら、何とか「教育」という土俵に乗せ、子どもに考えさせ、子どもの思考や行動を変えていっているからこそ、その子どもの成長につながっているのだと思います。



はじめは小さいいじめ、トラブルかもしれませんが、それをどう扱うかによって、一方は裁判沙汰になってしまうだろうし、一方は子どもの大きな成長につながっていきます。小さなうちに、ていねいな対応をして、その問題を教育に変換する……

ここにも「魂は細部に宿る」が言えます。